

## ギニア月報(2021年6月)

### 主な出来事

#### 【内政】

- 19日、ラマ保健大臣は、ギニアにおけるエボラ出血熱流行の終息を宣言。
- 22日、5月に新たに金の鉱床が発見されたガウアル県の金鉱山を政府が閉鎖したことで、市民デモ隊と治安部隊の間で衝突が発生し、市民2名が死亡。

#### 【外政】

- 8日、コンデ大統領は、アフリカ各国首脳と共に気候に関するオンライン会議に参加。
- 11日、ディアロ UFDG 党党首は、在ギニア米臨時大使、仏及び EU 大使、国連調整官及び ECOWAS の代表者と面会。
- 19日、コンデ大統領は、ECOWAS 首脳会議の第59回通常会議に出席し、テロ、新型コロナウイルス、共通通貨、ZLECAF、国境問題及びマリ政治危機等に関し、他のアフリカ各国首脳と意見交換を実施。
- 19日、コンデ大統領とサル・セネガル大統領は、二国間の軍事・技術協力に関する覚書に署名。

#### 【経済(経済協力含む)】

- 2日、ディアロ協力・アフリカ統合大臣及び黄巍在ギニア中国大使は、中国により供与された1,838トンの食糧供与式に出席。
- 4日、カーティス在ギニア米臨時代理大使とディアロ協力・アフリカ統合大臣は、USAIDを通じた地方自治と保健システム強化支援事業(2,300万ドル)の実施に合意。
- 18日、トルコ ALBAYRAK 社は、ギニアの食糧安全保障を確保するためのコンデ大統領のイニシアティブの一環として、トラクター等の農機具(5,000万ドル)を供与。
- 18日、SMB-Winning 合併会社による国道一号線カンカン＝ケルアネ間(147km)の改修工事(3,000万ドル)が終了。
- 24日、中国水・電力会社(CWE)によって建設されたスワピティダムがギニア政府に供与。
- 24日、国民議会にて、オランダ企業庁(RVO)と企業開発銀行(FMO)が半額ずつ融資する5つの橋梁及びその付近の道路(各15メートル)建設(約6,000万ユーロ)の融資契約に関する合意が採択。

### 1 内政

- ・ 3日、コンデ大統領とケイタ運輸大臣は、偽造防止機能を備え、国際的に使用できる生体認証運転免許証を発表した。
- ・ 5日、国家衛生安全保障局(ANSS)は、新型コロナウイルス対策措置を一部緩和し、式典や文化行事の参加人数は50-100名とし、新型コロナウイルスの陰性証明書またはワクチン接種証明

書の提示、石鹼・水を使った手洗いキットまたは消毒ジェルの設置を求めた。

- ・ 5日、ディアネ・ラベ行政区知事は、「国際環境デー」に際し、1950年代に国内に存在した3,800の河川数は現在1,500にまで減少していると述べ、生態系破壊の状況とその保全の必要性を述べた。
- ・ 9日、ディアロ UFDG 党党首は、臨時政治評議会後、UFDG 他野党幹部や活動家が刑務所に拘留されており、UFDG 本部及び事務所が軍や治安部隊によって占有されている、自身及び自身の配偶者と協力者の権利と移動の自由が奪われている限り与党との政治対話に関するコメントは控える旨述べた。
- ・ 14日、コンデ大統領は、ハディア・ソウ氏をフランコフォニー国際機関全国委員会の事務局長に任命した。
- ・ 14日、コンデ大統領は、国務大臣及び大統領特別顧問であるラシッド・ンジャイ氏をフランコフォニー常設理事会国家元首代表に任命した。
- ・ 16日、政治・社会対話枠組みが開催され、ディアビー公共事業大臣、バルデ国家憲兵隊最高司令部将軍等が出席し、道路交通・運輸分野に関して意見交換を行った。
- ・ 18日、コンデ大統領は元 UFDG のママディ・コンデ氏及びボルバカル・ディアロ氏に恩赦を与えた。コンデ氏は国家機関への攻撃及び虚偽情報流布の罪で禁固1年、ディアロ氏は殺人未遂及び戦争兵器の不法所持で禁固10年執行猶予5年を言い渡されていた。
- ・ 19日、ラマ保健大臣は WHO 代表等出席のもと、ゼレコレ県保健局でギニアにおけるエボラ出血熱流行の終息を宣言。同流行の最初の症例は、2月14日にゴエクケ県で確認され、公式発表によると5名の死者が発生した。
- ・ 22日、コンデ大統領はスレイマン・コンデ氏(元在米 FNDC 調整官)及びユソフ・ディウバテ氏に恩赦を与えた。両氏は公共の秩序を乱す可能性のある情報配布等の罪で有罪となり、中央刑務所に拘留されていた。
- ・ 22日、5月に新たに金の鉱床が発見されたガウアル県の金鉱山を政府が閉鎖したことで、市民デモ隊と治安部隊の間で衝突が発生し、市民2名が死亡した。

## 2 外交

- ・ 3日、バロウ・ガンビア大統領がギニアを来訪し、コンデ大統領と ECOWAS 域内の共通の関心事に関し意見交換を行った。また、同大統領はフォファナ首相及びヤタラ大臣と共にスアピティダムの水力発電施設を視察した。
- ・ 7日、コンデ大統領はアナディフ国連事務総長特別代表と面会した。8日、カマロ国民議会議長は、ローゼンブリット・イスラエル大使と面会し、断絶後、2017年に国交が再開された二国間関係の強化、特に訓練のためギニア人のイスラエルへの招聘事業に関し意見交換を行った。8日、コンデ大統領は、アフリカ各国首脳と共に、気候に関するオンライン会議に参加し、アフリカ再生可能エネルギー・イニシアティブ(ARIA)内で、ギニアは2016-2020年の間に10GW の再生可能エネルギーの発電能力を強化するという目標を15カ月早く達成し、第2フェーズ(2020-2030年)

では300GW の発電能力獲得を目指しており、そのためには5,000億ドルの投資が必要である旨述べた。

- ・ 8日、トゥーレ UFR 党党首は、ビゴ仏外務省アフリカ局長と面会し、ギニアにおける拘束中の野党政治家及び自由の制限等に関し意見交換を行った。
- ・ 9日、カマロ国民議会議長は、チャラクサラエイ在ギニア・イラン大使と面会し、二国間関係強化に関し意見交換を行った。
- ・ 11日、ディアロ UFDG 党党首は、在ギニア米臨時代理大使、仏及び EU 大使、国連調整官及び ECOWAS の代表者と面会し、国内の社会・政治危機に関し意見交換を行った。
- ・ 15日、カバ外務・在外自国民大臣、ディアネ国防大臣及びシスコ在ナイジェリア・ギニア大使は、第4回 ECOWAS 調停・安全保障理事会に出席し、地域の安全保障・人道状況、特にマリ of 政治危機、テロの台頭及びギニア湾における海賊問題について協議した。
- ・ 16日、ディアロ UFDG 党党首は、マキロイ在ギニア英国大使と面会し、ギニアの政治危機に関し意見交換を行った。
- ・ 19日、コンデ大統領は、第59回 ECOWAS 首脳会議に出席し、テロ、新型コロナウイルス、共通通貨、ZLECAF、国境問題及びマリ of 政治危機等に関し、他のアフリカ各国首脳と意見交換を行った。
- ・ 19日、コンデ大統領とサル・セネガル大統領は、二国間の軍事・技術協力に関する覚書に署名した。
- ・ 21日、ギニアの伝統楽器であるジャンベの神様と呼ばれ、ギニア文化を鹿児島県三島村をはじめ日本に広めたママディ・ケイタ氏が逝去した。
- ・ 23日、ディアロ UFDG 党党首は、松原在ギニア日本大使と面会した。
- ・ 23日、ディアネ国防大臣は、モスクワで開催された第9回国際安全保障会議に出席し、マリにおけるテロとの戦い等に関し意見交換を行った。
- ・ 23日、シラ国民議会野党党首はフェルナンデス in ギニア ECOWAS 特使と面会し、ギニア民主連合(UDF)は非暴力である旨述べ、ギニアの危機の解決に際し ECOWAS の協力を要請した。
- ・ 24日、シラ国民議会野党党首は、黄巍 in ギニア中国大使と面会し、両国の外交関係及び開発課題に関し意見交換を行った。
- ・ 26日、カマラ産業・中小企業大臣は、チュニスにてチュニアのプサイド産業・鉱山・貿易大臣代理に面会し、二国間の経済協力に関し意見交換を行った。
- ・ 28日、カバ外務・在外自国民大臣は、ローマで開催された「イスラム国(ISIS)に対する国際連合」の閣僚会議に出席し、テログループ撲滅のための他国と協調性した多面的な対策に関し意見交換を行った。
- ・ 29日、クリバリ郵便・電気通信・デジタル経済大臣は、バルセロナで開催された世界電気通信会議に出席し、デジタルトランスフォーメーションを通じた経済成長を可能にする政府の政策や規制に関し意見交換を行った。
- ・ 30日、ムサ国連政治局平和構築・平和活動部西アフリカ課課長はギニアを訪れ、ディアロ UFDG

党党首、シラ国民議会野党党首及びバングラ政治・社会対話常設枠組み議長等と国内の政治危機に関し意見交換を行った。

### 3 経済(経済協力含む)

- ・ 1日、国際通貨基金(IMF)は、ギニアの SMB-Winning 合併会社の幹部役員と面会し、ボファ=ボケ間の鉄道敷設事業及び現地加工のためのアルミナ精製工場等の同会社の展望及びインフラ及び特定の職種に必要な資格不足等、鉱山会社が直面する問題に関し意見交換を行った。
- ・ 2日、ディアロ協力・アフリカ統合大臣と黄巍在ギニア中国大使は、中国により供与された1, 838トンの食糧供与式に出席した。同食糧は、在ギニア WFP 事務所によって新型コロナウイルス及び食料不足に強く影響を受けている農村部の脆弱な人々45, 885名に配布される模様。
- ・ 2日、フォファナ首相は、Totalグループのミットルマン・アフリカ・マーケティング・サービス部長と面会し、同氏はグループの国内のガソリンスタンド事業に対する4, 000-5, 000万ドルの投資を約束した。
- ・ 3日、アフリカ開発銀行はエボラ出血熱の再発防止対策として、ギニア政府に対し43万ドルの支援を表明した。同支援では新たな流行防止のための監視体制強化及び個人用防護具、隔離・患者管理施設等の提供が実施される予定。
- ・ 4日、カーティス在ギニア米国臨時代理大使とディアロ協力・アフリカ統合大臣は、USAIDを通じた地方自治と保健システム強化支援事業(2, 300万ドル)の実施に合意した。特に母子保健及びマラリア対策支援に使用される模様。
- ・ 7日、ヤタラ・エネルギー大臣は、ギニアとリベリア国境マコナ川沿いに位置する水力発電用ダム建設予定地を訪問し、関係者と意見交換を行った。
- ・ 8日、当地主要メディアは、トゥーレ在コートジボワール大使とムシャンガ・アフリカ連合貿易・産業・鉱山担当経済開発委員が、アフリカ鉱山開発センター(AMDC)をギニアに移転する協定に署名した旨報じた。AMDC のギニア移転により、国内の鉱山分野の専門知識の蓄積、能力強化及び投資家の誘致が期待される模様。
- ・ 9日、仏・独の支援で実施されている保健分野のガバナンス強化事業「PASA1」と「PASA2」の運営委員会会議が開催され、ギニア政府及び EU 代表と開発協力機構(Expertise France、GIZ)が意見交換を行った。同事業は、保健省と地方保健システム強化を目的とし、ンゼレコレ地域では4回目の妊婦検診を終えた妊婦の割合が3倍に増加する、慢性的な栄養失調の割合が大幅に減少する等、既に成果を上げている模様。
- ・ 14日、ユネスコ国際教育局(BIE-UNESCO)教育専門家代表団がギニアを訪問し、バリー国民教育・識字教育大臣等と「未就学児基礎教育事業」のカリキュラム改定、能力強化及びデジタル化等に関し意見交換を行った。
- ・ 15日、保健省、国立衛生医療施設局(DNEHHS)、大学病院センター(CUH)、地域保健局(DCS)、県保健局(DPS)等及び在ギニア仏大使館、仏開発庁(AFD)、EU 等の代表が、ギニアの医療機関における感染症予防・管理事業の開始式に出席した。同事業は、AFD が700万ユーロの資金

提供を行い、Expertise France により、感染症の予防・管理研修等が実施される見込み。

- ・ 15日、松原在ギニア日本国大使、ディアネ国防大臣及びヨノウサ在ギニア UNDP 事務所長代理は、「PKO(国連平和維持活動)訓練センター支援」フェーズ1・2引渡式に出席した。同事業では、センターの運営及び危機管理研修等の実施、電子機器及びミニバス等の供与、運動場や水給水設備の整備等が実施された。
- ・ 18日、トルコ ALBAYRAK 社は、ギニアの食糧安全保障を確保するためのコンデ大統領のイニシアティブの一環として、トラクター等の農機具(5,000万ドル)を供与した。
- ・ 18日、SMB-Winning 合弁会社による国道一号線カンカン＝ケルアネ間(147km)の改修工事(3,000万ドル)が終了し、開通式が実施された。従来は交通に10時間を要していたところ、3時間半での移動が可能になった模様。
- ・ 24日、松原在ギニア日本国大使、ラマ保健大臣及びケイタ国家衛生安全保障局(ANSS)長官他は、「経済社会開発計画(保健・医療関連機材)」(3億円)の供与式に出席した。同事業では、酸素濃縮器10台、超音波洗浄機10台、救急車15台及び発電機2台がコナクリ市及び地方の感染症治療センターへ供与される見込み。
- ・ 24日、2019年7月から実施されていたボケ空港改修工事が完工した。
- ・ 24日、中国水・電力会社(CWE)によって建設されたスワピティダム(450MW)がギニア政府に引き渡された。同ダムは2016年に建設工事が開始され、既に作られた電力はコナクリ市内に供給され始めており、2022年6月には全ての工事が完了する見込み。
- ・ 24日、ニマガ鉱山・地質省次官は、コナクリ市内で開催されたジャーナリスト向けの研修の開会式で、ギニアの鉱山分野の成長について説明し、国内で稼働している鉱山会社の数は2010-2020年の間に3倍以上に増加し、2021年の投資総額は64億ドルに上る旨及びボーキサイトの生産量が2019年には過去最高水準に達し、雇用数が2010-2019年の間に2.7倍になった旨述べた。
- ・ 24日、国民議会にて、オランダ企業庁(RVO)と企業開発銀行(FMO)が半額ずつ融資する5つの橋梁及びその付近の道路(各15メートル)建設(約6,000万ユーロ)の融資契約に関する合意が採択された。